



創立40周年記念の公演に向けて、稽古に励む劇団「かたつむり」のメンバーたち。荒尾市

## 「人負担で再建 早く戻したかった」

任は、毎年春と大祭でにぎわう歌に親しまれて4月の地震で崩壊した。玉部が倒れ、本殿

無残な姿を見かねた歌野さんが、鳥居の修復費用120万円を神社に寄付。9月末に再建工事が始まり、10月9日に真新しい鳥居が住民にお披露目された。「兄の出征を見送った恩義のある神社。入り口の鳥居だけでも、早く元に戻したかった」と歌野さん。

10月28日、神社を訪れた歌野さんは「立派な鳥居になり、神様も喜んでいらっしゃる」。地元の歌野隆一区长(62)も「大切に後世へ残したい」と話した。(臼杵大介)

## 玉名市 薬草のまちづくり学ぶ

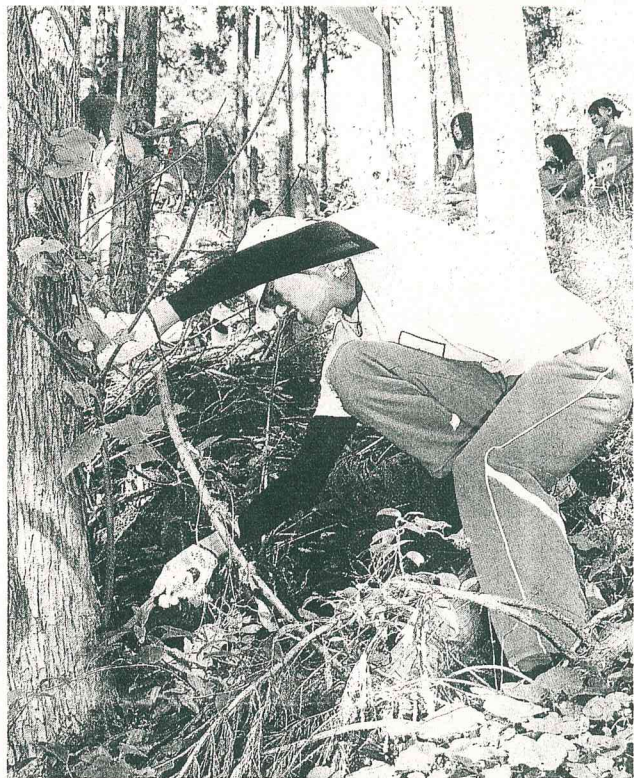
### 岱明中生、苗植えを体験

玉名市の岱明中の1年生が9日、同市で進められている薬草を使ったまちづくりについて学ぶ。水産物や景観を生かした地域活性化の成功事例を学ぶ。昨年、農林



会長 子 ンポ

## 「学校林」大切に美しく 下草刈り 植林作業



菊池高育友会林で下草刈りに取り組む生徒＝菊池市

### 菊池高生

菊池高の1・2年生350人が7日、菊池市重味の高育友会林で林業を体験した。約80年続く恒例行事。生徒たちは下草刈りや植林作業に汗を流した。

保護者らでつくる育友会(村上幸一郎会長)の管理林が約17畝あり、1933年に学校林として活用を始めた。伐採材の販売益を学校設備の費用に充てたほか、08年完成の現校舎では壁や廊下の資材に使った。生徒は現地で、40〜50年前に植えたスギやヒノキの周囲に茂る雑草を刈り取り、新たにスギ約500本を植樹。丸太切りのクラス対抗戦も楽しんだ。

村上隆成さん(17)は「足場が悪く、大変な作業だが、代々受け継いできた取り組み。未来の後輩にきれいな山を残したい」と、のこぎりで傾斜地の雑木を切っていた。(佐藤公亮)

例「ディスプレイ農山さい」と呼び掛けた。漁村の宝」の全国27団体の一に選ばれた。宮永会長は「薬草で玉名を盛り上げようと地道に活動している。皆さんも協力してください」

薬草のことをもっとよく知りたいと話した。



定めする製材業者ら＝南小国町

で、1立方尺当たりの万円で落札された。上総額は4049万円で、1立方尺当たり平均単価は1万536円だった。

阿蘇森林組合は「質材が集まり、例年のみの平均単価は維持



小学校の体育の授業で、マット運動の様子を見守るドイツの

小て体育の授業を視察した。一行は、日独の指導者の交流と資質向上を目的に、文部科学省や日本体育協会、日本スポーツ少年団(東京)が続ける恒例行事の一環で訪れた。

来日したのは、競技団体のスポーツクラブなどで指導に当たる26人。一行は13日間の滞中に県内7市町の滞り、東京や鹿児島県などで指導に当たる26人。 (前田晃志)